

5/23.3-78

松野官房長官 被爆者を攻撃

松野博一官房長官は22日の記者会見で、主要7カ国首脳会議（G7広島サミット、19～21日）は核兵器廃絶を求めるものとなりてならないとの被爆者の抗争の顛末を反発し、G7の欺瞞（あおこ）を正直化しました。

松野氏はG7の共同文書

文書考

G7の欺瞞を正当化

禁止条約には一切普及せず、核兵器は「防衛目的のために役割を果たす」などとして「核抑止」を全面的に正当化し、「核兵器のない世界」の実現を「究極の目標」として即時廃絶を否定。廃絶への前向きなメッセージングを期待する内外の声を真っ向から裏切りました。

被爆者や正義からいは批判が相次いでいます。被爆者のサーロー節子さんは、地元紙・中國新聞のインタビューで、「中国の核兵器は肯定し、対立する国々の核兵器を非難するばかりの発信を被爆地からするのは許されない」と訴えま

記者会見で、松野田は、C7首脳の原爆資料館訪問に触れ、「世界のリーダーたちに被爆の実相に触れてもらいたく、肅然（しゅくぜん）と胸に刻む時を共有した」と訴え、「核兵器のない世界」に向け「現実的かつ実戦的な取り組みを力強く進めていく」と述べました。

各国首脳が被爆の実相を本当に胸に刻んだのなら、取り組むべきは即時核廃絶以外ないはずです。被爆者や市民の願いを踏みにじることは許され